



スペイン語での読み聞かせの様子

- 1. 対象：**日本生まれのスペイン語圏にルーツを持つ瀬戸市内の小学校児童生徒
(2020年 [2年生～5年生] 約15名、2021年 [1年生] 約15名)

《子どもたちの背景》

「家庭内では母語、家庭外では日本語」の多言語状況では母語を喪失しやすい。親は子に自らの価値観、倫理観、文化を伝えられず、子どもも自分の感情や悩みを親に伝えられない。子どもの母語の喪失は自己肯定感の低下、アイデンティティの揺れなど成長に影響を与え、思考力に必要な母語の未発達は学習面でのつまづきも引き起こしやすい。

2. 活動の目的

継承語でのコミュニケーション能力の向上／子どもの自己肯定感、アイデンティティを肯定的に捉える機会の提供／家庭内の母語育成方法の親への伝達

3. 方法

- (1) 相互的な読み聞かせ：読み聞かせ／ペア読書を通じた読解ストラテジーの獲得／語彙の増加、本への興味・関心、対話力、読解力、表現力の向上を目指す。
- (2) 学習活動：工作、絵画、発表、劇など各月のテーマに即した体験型活動の実施。
- (3) 家庭との連携活動：教材準備やイベント開催、母語の重要性、読み聞かせや声かけの方法などの伝達。

- 4. 日時・場所：**瀬戸市の団地内にある集会所／土曜日の午前中（75分）

- 5. 支援者：**本学博士前期課程院生2名（うち1名はペルーからの留学生でペルーの教員免許取得者）／公立小学校教員1名、本学外国語学部生1名（スペイン語圏専攻）

学習活動の様子



※写真はすべて、保護者の承諾を得て掲載しています。